

回覧



# わがまち池上

池上管内世帯人口数  
(外国人住人を含む)  
(令和6年11月1日)

- ・世帯数 25,119
- ・人口(男) 22,462
- ・人口(女) 23,112
- ・人口(計) 45,574

発行：地域力推進池上地区委員会  
編集：地域情報紙「わがまち池上」編集委員会  
事務局：大田区池上特別出張所  
〒146-0082 大田区池上1-29-6  
電話 (3752) 3441(代)



発行日3・6・9月の25日、12月15日

私は昭和5年3月生れの94歳で、今の大森三中学校の途中にあった父の持ち家で生まれました。小さい頃は池上から大森駅の方に向かう主たる道路は旧道でしたので、母が「口バが引く幼稚園の赤い車」を度々見に連れて行ってくれたことを思い出します。入新井第四小学校に入学し、昭和11年7月に父が桐里町の坂の途中に建てた趣のある家に転居、戦災に遭わず住んで90年になります。その頃北側は家が草ぼうぼうでした。自宅から貴船坂や本門寺の方を見ても家は殆んどなく、時々陸軍の兵隊が何かの訓練や、馬を連れていたりしました。貴船坂下には魚屋・バス停が、少し先には交番などもあり、バスが坂を上るのが見え、終点の坂上で引き返すので待たずにバスに乗れて良かったです。6年生の時、昭和16年12



## 池上の昔を語る(36)

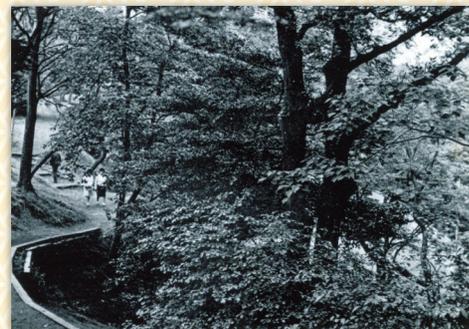
### 原一男さんに聞く(中央五丁目在住)

月8日朝、ラジオが「大本営発表、帝国陸海軍は本8日未明、西太平洋において米・英両国軍と戦闘状態に入り」と勇ましい声が何度も放送されていたのを忘れることが出来ません。

そして芝中学(旧制)2年生になると授業は無く、大森で延焼防止のための建物取り壊し作業(編注：建物強制疎開)、数ヶ月後には毎日羽田の軍需工場に派遣されました。屋敷の副食は貧弱でしたが白米のご飯が食べられました。昭和20年4月15日の夜、家の正面の本門寺が激しく燃えているのに気付く、蓬萊坂の上の方に避難しました。そこには大勢の人が居て、坂の下の方から蒲田・大森方面に向かって空が真っ赤になり燃えていました。

今の馬込の桜並木(当時は小川が流れていた)の方は家もなほ何もない状態でしたが、避難すると兵隊さんが何人も来ており、本門寺が焼けたので出て来たと言っていました。しばらくして帰ったら家は無事で良かったです。戦後は50坪位の庭に、大概の野菜を作って食べるのにやっとでした。お祭の時は白衣を着た傷病兵が大勢物乞いしている姿が印象に残っています。

終戦となって、中学の校舎は焼失してしまっていたので、焼け跡を整理しながら、近くの中



写真集「池上本門寺」本門寺公園



写真集「池上本門寺」弁天池

学の校舎を借りて授業が始まりました。その後、歴史のある日本医科大学に入学・卒業し、大病院の内科に入局して患者さんの診療、定年後は一般病院で90歳迄、週3回の診療を継続しました。

近所の本門寺公園は、敷地の大部分が本門寺の土地でしたが、一部個人所有や借用していた部分もあり、開園に先立ち色々面倒なこともあったようですが、本門寺の檀徒総代の地元東京市会議員の横溝直也氏が中心となり努力され、面積9千坪余の公園が約5年間の工事により昭和13年12月3日に東京市立公園として開園

しました。公園の中には種々の立派な木があり、松の木も多数ありましたが、その根から取れる松根油生産のため、戦争中全て伐採されました。戦時中は弁天池から大きな広場に向かって行く途中の右側土手の部分に幾つかの奥深い横穴が掘られて防空壕として使わ



## プラネタリウム

池上青少年対の行事である池上プラネタリウム教室が、9月9日と9月25日の2日に分けて、池上地区内の池上、池上第二、徳持小学校の4年生278名を対象に行われました。

開催したのは、東京モバイルプラネタリウムの木村さんで、40人程が入れる大きなシアターの中で、手作りの投影機を使って美しい星空を映し出していました。

プラネタリウムは投影当日の夕方の空から始まり、時がたつと夜空になり、様々な星、星座、月の満ち欠けなどを楽しく分かります。説明をして頂きました。

小学生たちは、その美しい夜空の世界にすぐにとけこみ、大きな声で星や星座の名前を言ったりして、楽しい45分間の星空教室を体験しました。

木村さんは、2001年3月まで渋谷にあった五島プラネタリウム

に勤務していて、閉館の際にどうしてもプラネタリウムから離れられず、色々考えられた結果、自分でこの装置を作って活動しているそうです。

小学生たちの目は、木村さんから映し出されたプラネタリウムの星のように、キラキラきらめいていました。

れました。また空襲などで多数の死者が出て、大きな広場は一時埋葬の場として土盛りの小山がいくつも造られました。傍らに弁天堂がある弁天池は湧き水で、本門寺の奥庭の松濠園の池のきれいな水が自然な小さな流れで弁天池に繋がっており、小さい魚も泳いでいました。

### 旧家 浅野豊店

本門寺通り中里医院脇を、かつて流れていた六郷用水沿いの浅野豊店ですが、昔は旧道にまで面したお店だったようで、いつの時代から池上に住まわれていたのか、伺ってみました。

「記憶は定かでは無いのですが、先代からの言い伝えによると江戸中期頃から住み始めたと聞いています」と、現在のご当主がお話ししてくれました。すると概ね、享保年間（一七一六〜三二）にかけ当地に土着されたかと思われ、駅前にて葛餅屋を営む浅野屋さんも、



大森第四中 作品

### 国際豊かな池上

吉田 麻梨那

池上には、季節が移り変わる本門寺の自然、そこで行われる文化と伝統が詰まったお会式、お店や施設が充実して活がいやすいことなど、たくさん魅力があります。最近では、外国の方もよく見かけます。久寿餅やあんみつなどの日本独自のお菓子や、寺院が多くの情緒ある町並み、大田区の花でもある池上梅園の梅や、本門寺の桜、養源寺の紫陽花など、日本ならではの魅力がこの町にはたくさん詰まっているからだと思います。実際に私も池上梅園の梅を見たことがあるのですが、三十種類ほどの梅が咲い

親戚筋にあたるお家柄です。

又、現在のご当主が何代目にあたるかも、それも分からないことですが、昭和13年生まれの先代清さんまでを逆算すると、恐らく十一・二代目位になるかと思われ。

本門寺御用達の豊屋の一軒を務める、池上でも指折りの豊職人であった先代は、新内を唄われる風流人でした。夜な夜な小料理屋に通っては披露していたそうで、池上の飲食街では知る人ぞ知る有名人だったそうです。

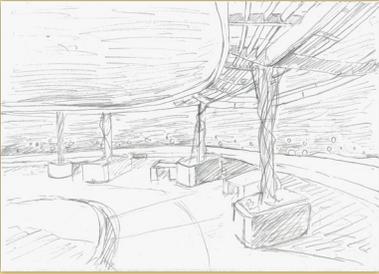
先代清さんは、単車（オートバイ）で同級生達と遠乗りを楽しむ活発な若者でしたが、先々

代が亡くなった後は、家業に専念する傍ら舟木一夫の「高校三年生」がカラオケの十八番でしたので、取引先との酒席では同席者に乞われると、父親譲りの自慢の喉を聞かせていました。

清さんには昭和13年生まれの硝子屋・左官屋・建具屋等、職人仲間の同級生が近所でも多く商いをしていたので、誰ともなく声がかかる豪遊をすることもあったそうです。

二人の男の子を授かった清さんは、豊屋職人としての技を仕込んだ後、平成29年に亡くなりました。

残された誠さんと友和さんは家名を汚さぬよう、色々アイデア



2年D組 上部 美岬

ていて、美しく感動しました。他にも、池上七福神巡りが有名で、このような池上を巡るツアーのようなものがあるからこそ、外国の方も訪れやすいのだと思います。これからも、外国の方にも魅力を感じてもらえるような池上にしていきたいです。



1年D組 宮城 結希

### 青少対だより

#### 池上スポーツまつり

池上スポーツまつりは昨年に続きポッチャ交流会を10月20日（日）に池上小学校の体育館で開催しました。

今回は、地域の各町会、小学校、家族など26チームがエントリーして、熱い戦いを繰り広げました。

老若男女、誰もが同じ土俵で戦い、楽しめるポッチャが池上の地域に根付いてきたことが感じられる一日でした。



池上六郷用水沿い「かつての浅野豊店」

を出し合い頑張っており、時世が変わり今年九月先祖から受け継ぎ住み馴れた池上の地を離れ、惜しまれつつも中央三丁目観音通り中程の新店舗へと移って行かれました。

池上では由緒ある家名家業でしたので、ご兄弟二人でこれからも守って下さい。



#### 池上ふれあいコンサート

池上ふれあいコンサートは、11月3日（祝）13時より池上会館集会所で行われました。秋晴れの気持ちの良い天気の中、11団体（福祉園・保育園・小中学校・地域）の出演がありました。会場は昨年に続き終始満席状態。最後の全員合唱では会場の大スクリーンを使い、マツケンサンバIIのカラオケを皆さんで歌い、「来年も会いましょう」と約束して閉幕となりました。

### 施設見学会

地域力推進池上地区委員会及びわがまち池上編集委員会合同施設見学会が、10月9日（水）に行われました。

朝から雨の中、バスに乗り最初の目的地、横須賀の歴史と海とバラの公園（ヴェルニ公園）へと出発しました。ところが雨のせい第三京浜道路で事故が発生し、その渋滞に巻き込まれ、到着が遅くなってしまい、横須賀港めぐりの乗船時間も迫っていたので、ヴェルニ公園の散策をあきらめることに。しかし後で考えると雨も降っていて、バラも咲いてはいないらしく、結果オーライだったのかな、なんて思いながら、横須賀軍港めぐりの遊覧船に乗りました。軍港の中には、潜水艦、イージス艦、海洋観測船、ヘリコプター用の航空母艦など、どれも見応えがありました。そして下船後、次の目的地横浜中華街で昼食をとり、最後の目的地、赤レンガ倉庫街へ向かいました。

バスを降り向ったのは赤レンガ街近くにある海上保安資料館です。この資料館では、北朝鮮の工作船の実物が展示されていました。この工作船は、平成13年に九州南西域における工作船事件のもので、沈没後、政府の決定によって引き上げられ、のちの場所で展示され、一般公開されています。工作船を目の当たりにしたときは、不気味さ、恐ろしさなど皆それぞれの感情を抱いたことでした。



しょう。そしてレンガ倉庫を見学し帰ってまいりました。



### 俳壇

杉田 とみ子

往來の  
まれにある中 障子貼る  
白昼を  
鳴がまあるく 眠りをり  
湯ざめして  
畳んだものを  
羽織るなり  
山眠る  
そのふところの  
十九代  
川沿ひの  
はつきり見えるだけ寒い



### 編集後記

コロナ禍が終息し各地で楽しい行事が開催されるようになり、反面担い手不足のため維持出来ないお祭りも増えているようです。来る年が世界中の子どもたちが安心して楽しく過ごせるような戦いのない平和な年になる事を祈ります。(M)